

入梅の候、皆様にお伝えしなければならぬことがございます。これは来たる6月9日より開幕されます偏執狂短編集4についての誓文でございます。

先日5月30日付けで警視庁から劇場へ通達ございました。かかる内容は公演演目に対する注意喚起でございます。それは、「ヌードおよびわいせつ物の露出表現を自粛せよ」という布令であり、自粛が行われなければ処罰の対象となり得るとの通達ございました。当運営側と致しましては、これに従わなければなりません。ご来場予定の皆様にはまず、この旨を謝罪しなければなりません。

続きましては、これら通達の経緯についてご説明させていただきます。まず、この偏執狂短編集4という公演にしましては、当劇団の4度目の企画でございます。公演コンセプトは「類い希なる残虐表現を含む大人のエンターテインメント」というものでございまして、グロテスクかつ多分に性的な表現を含むということを明記したものでございます。過去3度に亘り公演を行い、各回満員御礼の当劇団ヒットシリーズでございました。今回もご声援有り難く開演2週間前に満員売り止めというご声望を頂いております。過去3度の公演が好評を博し、今回も札止め御礼を頂きましたことは、この公演が「わいせつ物の陳列やわいせつ行為の見世物」を目的としてつくられたものではなかったためです。諸注意事項にも、性的表現を含むと明記がございますが、わいせつ物を提示するという旨を公言したことはございません。ならびに、お断りしなければならぬことは、このたびの偏執狂短編集4にあたって、ヌードによる表現を行うつもりでございました。アートのなかでの、一つの表現方法として使用せざるを得ない必須事例であったので、当公演は行う予定であったのでございます。これには勿論、付則しなければならぬことがございます。当公演は、殺人、致傷、性器の挿入行為、未成年児童への性的表現以外のすべての残虐かつ性的な表現をストーリー演出構成上、表現いたします。それは出演キャストと交渉、相談のうえに行なうものであり、言論や間接表現にいたってはすべてをありのままに事実事象として行なうものでございます。これらを率先して行なうには理由がございます。当公演は演劇の可能領域を模索するものであると考えるからです。当公演が考える演劇は、3Dの形でストーリーを構築するものであり、そのみならず新しい表現や思索、啓蒙、不条理、理不尽を訴えるものであると認識しております。表現は、事実には劣ります。事実には表現よりも残酷で、表現よりも奇異です。しかし衝撃的な事実のほとんどは、体験した当事者しかその感慨を知ることができません。表現は、事実には肉薄した感慨を伝達するものでなくてはなりません。レイプ被害や快樂殺人のその事実を訴える女性や男性が裸ですらない表現は事実の感慨に肉薄したものではありません。その悲劇を想像するより、または映像で閲覧するよりも、目の前で繰り広げられるスレスレの演技こそが世に訴えを起こすものであり、それらの事実には肉薄した感慨による慟哭を呼び覚ますものこそが演劇であると、当公演は考えております。これらの訴えを行なう以上、当公演は表現の是正や規制に対して、断固戦う姿勢を設けてございます。故に、ヌードによる表現は欠かせないものなのでございます。

これに至り、包み隠さず申し上げます。この姿勢を汲んで頂けなかった一部の方から、これらの表現の自由をただ「わいせつ物の陳列および未成年者への児童ポルノ強制または青少年育成法違反の疑惑がある」と指摘され、当演目は警察の介入を招き表現の自粛を余儀なくされました。このことはあらゆる誹謗を覚悟の上で、遺憾であると嘆息せざるを得ません。例えば児童ポルノ禁止条例に関して考えますれば、確かに当公演は未成年の俳優の起用を行っております。ですが、未成年の児童に対しては本人はもちろんご家族の了承を得て所属事務所へ出演のオファーをしたものであり、未成年者へヌードの要求をすることもございません。これを一方的な見解で児童ポルノであると断じることこそ、アート表現への迫害であると感じております。

また、話は戻りますが、訴えや嘆きのみで当演目は表現にヌードを取り入れるわけではございません。それはただ偏にアートの美しさとしての表現でございます。裸体が、ただわいせつなものであるとは思いませんし、不特定多数により意思なく目撃されうる公道での露出行為をしようというものでもございません。裸体は美しく、裸体ほど美しいものはございません。これはひとつのアーティストとしての正直な意向でございます。

劇場オーナーからは警察側と同じく自粛を促されましたが、当演目と致しましてはこの処置に対して警察方へも劇場オーナーへも異論も不満もございません。オーナーがいてくれたからこそ、当演目は飛躍して来られたのです。公的機関が目を据えていたからこそ、当公演は正しく行えるのです。ただ、世間や常識や道徳からの判断とされましては徹底的に反論いたします。法は正しく、処罰にあたることは控えます。しかし、倫理道徳は表現の自由やその叫び声を吸収し進化するものであると信じております。当公演はこれら規制に従う中で、さらなる倫理道徳の先進を懇望するものでございます。当公演で行なうすべての表現が、倫理道徳を損なうものではないことはおろか、その先進を約束すると自負するためでございます。

当公演の規制処置と致しましては、本来、ヌードで表現するつもりであった身体の部分を特定の色彩（銀）で覆うことに決定致しました。また、それらの部位には「規制」の文字が入ることとなります。このことは著しく視覚的な緩衝となりアートを損なうことになりませんが、これをして当公演からの抗議の声として提示するものであり、ありのままの表現をこの度も期待して下さった皆様への、我々の筆舌に尽くし難いあらゆる想いを込めた表現とさせて頂きたいと思えます。当公演会場の受付においても、これら規制用衣類を提示し、おことわりの謝罪文を明示させて頂きたいと準備を進めてございます。また、未成年出演者がメインキャストを務める演目に関しては、この規制の通達を大きく受け止め、演目自体を中止し、新たに別演目を増やすことを本日付で決定いたしました。すべてのキャストスタッフと議論の末、この決断を下す始末となりました。ことをお詫び申し上げます。関係する演目は「日本に置き換えておりますくナポリの豊年祭のこと」をお詫び申し上げます。関係する演目は「日本に置き換えておりますくナポリの豊年祭のこと」とく悪徳の栄えよりくマルキドサド著「千年狐狸精蘇妲己凌遲演義」の二演目になります。これらはどちらも当公演を代表する演目であったがゆえに、停止を決定するまでに多くの時間を要しました。このことについても陳謝をお許しください。ただ、数か月の稽古の蓄積と作品の余りある良質な完成度を鑑みましたうえで、「これら二演目の延期上演（偏執狂短編集4・5）」を宣言しますとここに明記させていただきます。それはメインキャストを務める未成年者が就学を終え、18歳を超えた1年の後になる予定でございます。これにはキャストを変更せず上演の運びとすることを関係者で決断いたしました。このような勝手な延期にお怒りの皆様には誠にもって謝罪する言葉が見当たりません。返しまして、今回の公演におけるこれら表現の規制に落胆してしまうでしょう皆様に対しまして、謝罪のしようがございません。このたびの開始末には、たいへんご迷惑をおかけ致します。

最後に、当公演の表現を行なうためにお招きしましたヌードアーティストの表現のほとんどが制限されてしまったことには悲しみを禁じ得ません。また、未成年者がメインキャストを務める二演目に関しても、当の未成年者をはじめ、関わる全てのキャストスタッフの落胆の声もここで代わりに伝えさせていただきたいと思っております。当公演は本心のところ、表現者に年齢、性別、人種をはじめあらゆる区別をなく演技に邁進したいと考えておりました。演技者には天稟のみが存在し、あらゆる差別は演技者に降りかかることではないと、当公演は強く信じておりました。しかしながら当公演は規制という怯懦に甘んじ、アートを蔑ろにしたのです。忸怩たる決断と共に、規制のうえで公演を行なうのでございます。ただ、黙っているわけにはいかない物事でございましたので、心中に燃やす反抗の火とともにこの表明を發布させて頂きたいと思いいち、ここに書き起こしました。